



NODA・MAP 第27回公演 「正三角関係」 SPECIAL Interview Vol.②

松本潤

劇場という濃密な時間と空間でしか
味わえないことがある

演劇界の鬼才・野田秀樹率いるNODA・MAPの最新作が、北九州芸術劇場に上陸します。「カラマゾフの兄弟」がモチーフの注目作で長男役を演じるのが、大河ドラマで主演を務めるなど俳優としての活躍も目覚ましい松本潤さん。舞台芸術の魅力、表現者としての現在地を語る語調にも熱がこもる、真摯な横顔をご覧ください。

文：川添史子 撮影：野坂茉莉絵 ヘアメイク：竹内美徳 スタ일리スト：丸本達彦

—— 松本さんにとって舞台の魅力とは？

やはりライブであることです。日々舞台のテンポや役者の演技、観客の感じ方が変化し、一期一会であることでしょうか。その場でどう生身の人間が動いて、表現するか……観客として目の前で“起こっていくこと”を眺めること自体が好きですし、演劇はそうした芸術であり、醍醐味もこの、“生の表現であること”だと思います。

—— NODA・MAPでは高校生割引チケット、北九州芸術劇場ではそのほかの公演でも10代の方に舞台に触れていただくティーンズチケットもあります。何かメッセージをいただけますか？

それはぜひ利用していただきたいですね！もしかすると、わざわざ劇場に足を運んで、スマホの電源を切ってじっとイスに座って過ごすという時間が、「めちゃめちゃ長い……」と敬遠してしまう気持ちが、今の若い世代にはあるのかもしれない。現代はSNSが普及したことで、情報に触れるスピード感がすごく早くて短いものになっていますよね。でも、舞台空間ならではの時間軸や感情の波みたいなものや、劇場という濃密な時間と空間でしか味わえないことがある。「演劇って楽しいんだ」と若い方たちに思ってもらえたら、そんな嬉しいことはないです。そう思う人が増えるように頑張らなきゃ

いけないな、と(笑)。

—— 松本さんも40代を迎え、新しい可能性の幕開けです。表現者として心境の変化はありますか？

若い頃は経験がない分、自分の感覚や直感で進むことしかできない部分があったと思います。でも最近は、「経験を経たからこそできること」も増えてきました。正解がない表現の世界では、“自分の正解”を出していくことが大事ですし、自分は何を表現したいのか、この作品で何をすべきか……改めてそこをじっくり考えながら、ものづくりの現場に身を置きたいと思うようになりました。新しい事にチャレンジすることも大切ですし、それが次の可能性に広がり、未知の作品や人物たちと触れ合ってたまたま響きが変わる——そんなことを体験できたと思っています。フラットに、謙虚に、そして日々を楽しみながら、新しい世界を見据えていきたいですね。

—— 最後に、北九州の印象、楽しみなことを教えてください。

ライブなどで西の方面へ行くと、なんだろう……とても明るい、楽しいなエネルギーを感じますね。もちろん、日本全国どの場所でも明るく迎えてくださいます。でも九州はとりわけ陽気で解放的なエネルギーがある気がしますね。僕自身、長期で一つの土地に滞在することは滅多になくて、宿泊先と仕事場を行き来するだけで終わってしまうことがほとんどなんです。街にゆっくり滞在して、のんびり歩いて、その土地を楽しむということが、これまであまりできなかったんですよ。だから数日間滞在できる今回は、北九州の美味しいお店に行くのも楽しみにしています。そういえば小倉城にも行ったことがないんです！街で僕を見かけたらそっと見守っていただいて……でも美味しいお店は教えてほしいですね(笑)。

Information

NODA・MAP 第27回公演「正三角関係」

9月5日(木)～11日(水)

J:COM北九州芸術劇場 大ホール

[作・演出]野田秀樹

[出演]松本潤、長澤まさみ、永山瑛太 ほか

公演情報詳細はこちら



6月23日(日) 12時 チケット一般発売開始!

